

病気や障害があっても  
住み慣れた地域で  
その人らしく安心して  
暮らせるようにするために

平成25~29年度の  
まとめ

## 認知症に重点を置いた地域包括ケアの推進 (嶺北地域アクションプラン)

この認知症に重点を置いた地域包括ケアの推進嶺北地域アクションプランは、下記の推進協議会メンバーが協力して作成してきました。

これまで、5ヶ年毎に目標を掲げるとともに、毎年、具体的に取り組んだことや次の一年の計画等についてとりまとめたり一フレットを作成してきました。そして、平成29年度はその5ヶ年計画の最終年度でした。

今回このリーフレットでは、平成25年度から平成29年度に具体的に取り組んできたことの成果や課題、さらに今後の取り組みについてとりまとめました。

ぜひ、各団体の関係者や地域住民の皆さまにご一読のうえ、アクションプランの取り組みをご理解いただき、病気や障害があっても、住み慣れた地域でその人らしく安心して暮らすことのできる地域づくりに役立てていただきたいと思います。

### 日本一の健康長寿県構想嶺北地域推進協議会メンバー

- |                 |                               |                  |
|-----------------|-------------------------------|------------------|
| ● 土佐長岡郡医師会副会長   | ● 嶺北地区民生委員児童委員代表              | ● 嶺北の地域リハを考える会代表 |
| ● 公立医療機関代表      | ● 嶺北地区介護施設代表                  | ● 本山市代表          |
| ● 高知県看護協会嶺北地区代表 | ● あったかふれあいセンター受託機関代表          | ● 大豊町代表          |
| ● 高知県薬剤師会嶺北地区代表 | ● 中央東ブロック介護支援専門員連絡協議会(嶺北地区)代表 | ● 土佐町代表          |
| ● 嶺北地区社会福祉協議会代表 | ● 地域のボランティア代表                 | ● 大川村代表          |

ふいかえい：課題

### 【嶺北地域保健医療計画（H20～24）取り組み後の課題】

- ▲ 患者（本人）・家族が安心して在宅生活を送るための退院支援の仕組みづくり
- ▲ 認知症の早期発見・早期対応につながる多職種連携の仕組みづくり
- ▲ 地域の相応しい高齢者住宅についての検討の場づくり
- ▲ 移住促進策との連携等地域が一体となった看護・介護職員の確保策の推進
- ▲ 地域の交流の拠点を活かした支え合いや見守りのネットワークづくり
- ▲ 嶺北地域の特性を考慮した分野横断的な地域住民との一体的な取り組み

見えてきた課題から、5ヶ年（H25～29）の目標を立てました。

ふいかえい：5ヶ年の目標

### 1. 医療・介護・福祉の連携の推進

- ① 認知症の早期発見・早期対応に向けた在宅ケアの推進の仕組みづくり
  - ② 在宅ケアを支えるための入院・入所施設との連携の仕組みづくり
  - ③ 地域が一体となった看護・介護職員の確保対策の推進
- ### 2. 地域の見守りや支え合いの推進
- ④ 地域で認知症を理解した人が増え、支える仕組みづくり
  - ⑤ 認知症等の要援護者を支援する行政、専門職と住民の連携

日本一の健康長寿県構想  
嶺北地域推進協議会



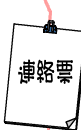
## 5ヶ年の取り組みと成果

### ① 認知症の早期発見・早期対応に向けた在宅ケアの推進の仕組みづくり

#### 認知症の早期発見・早期対応に向けての多職種連携が進化

嶺北4町村に認知症初期集中支援チームが設置され、行政と医療機関の連携がより強化されました。

介護支援専門員は、連絡票を活用し医師に利用者情報を提供しやすくなりました。



地域の薬剤師は、気づきノートを活用することで早期の認知症を発見し、関係機関につなぎました。

多職種による地域ケア会議の実施

#### 町村における認知症の早期発見・早期対応の体制づくりが強化

各町村『認知症地域支援推進員』配置

本山市、大豊町、土佐町で認知症ケアパスを作成し住民に配布しました。



大豊町では、もの忘れ相談係が住民や役場内で認知され、早期相談につながりやすくなりました。

土佐町では、長寿健診等での認知機能検査や専門医の診察によるMCI※の早期発見・早期対応の取り組みを継続実施してきました。 ※軽度認知障害



### ② 在宅ケアを支えるための入院・入所施設との連携の仕組みづくり

#### 医療、介護が必要な人が安心して地域で生活できるための連携が強化

多職種の研修会等を通じて互いの業務や役割への理解が進みました。

多職種参加の退院前カンファレンスを実施しました。

嶺北地域在宅医療・介護連携推進事業でのコーディネーターを配置しました。



### ③ 地域が一体となった看護・介護職員の確保対策の推進

#### 地域全体で取り組む人材確保対策の活発化

平成25年から毎年**嶺北地域の就職相談会**を開催してきました。平成26年からは「**れいほくバスツアー**」と題し、嶺北地域での就職相談会を企画。参加事業所による個別面談や施設見学も実施しました。また、地元のイベント開催日とも日程を合わせるなど、地域を楽しみながら就活していただけるような工夫もしています。

徐々に定着してきたバスツアーも平成29年で4回目となり、この就職相談会でこれまで**7名の方の就職が決まりました**。また、このバスツアーをきっかけに、職場実習を経て就職に至った学生の例もあります。このように嶺北地域一丸となって地道な取り組みを重ねたことで、その成果が見える形に現れてきました。



7名の方の就職が決まりました！



- 💡 人材確保育成検討会に役場の移住担当課が参加（平成28年～）
- 💡 4町村合同での介護職員初任者研修の実施
- 💡 社協とともに高校生のキャリア教育支援事業への取り組み開始（平成28年～）

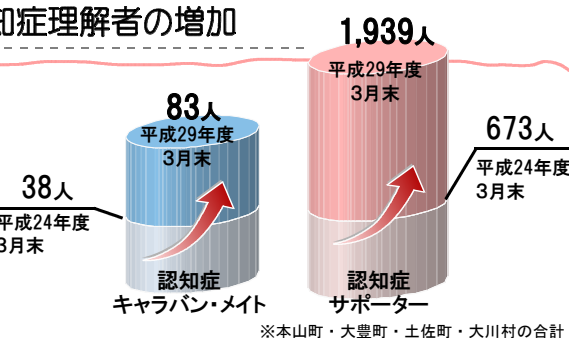
## 2. 地域の見守りや支え合いの推進

### ④ 地域で認知症を理解した人が増え、支える仕組みづくり

#### 地域での認知症理解者の増加



認知症キャラバン・メイトもサポーターも確実に増えてきています。



#### 認知症の人及び家族が集える場所の増加

- 認知症カフェ** あったかふれあいセンター等で認知症カフェが開設されました。
- 認知症理解** 認知症の理解者が増え、住民主体の集う場での認知症受け入れが始まりました。
- 家族の集い** 各町村において家族介護者の集いが定期的に行われるようになりました。



### ⑤ 認知症等の要援護者を支援する行政、専門職と住民の連携

#### 行政や関係機関、住民の協働による見守り体制づくりが各町村で進化

- 本山市では...** 『本山市地域見守りネットワーク推進会』を通じて関係者間の連携が強化。
- 大豊町では...** 民生委員と協働で平成24年から見守り活動を継続実施。また、町民が利用可能な社会資源を認知症ケアパスに掲載。
- 土佐町では...** 民生委員やあったかふれあいセンター職員と行政との情報共有の場づくりができた。また、あいざいネット会議により専門職（多職種）と行政、住民の連携が進んだ。
- 大川村では...** 社協、地域包括支援センター、関係機関、民生委員等で情報共有でき、日頃の見守りができている。

この5ヶ年、各団体が連携しながら様々な取り組みを行い成果が出てきました。すべての取り組み成果を記載することは出来ませんが、全体としてまとめています。次ページでは出てきた課題と今後の取り組みについてまとめています。



💡 各町村で色々な場所を活用して認知症の学びの場づくりを実施しました。

認知症に重点を置いた地域包括ケアの推進  
(嶺北地域アクションプラン)  
平成25年度から平成29年度までの取り組みから

## 出てきた課題と今後の取り組み

### 出てきた課題は・・・

各団体取り組みを進めてきた中で、見えてきた課題を整理してみると・・・

- ☑ 支援が必要な人が地域で暮らし続けることができる地域包括ケアシステムの構築
- ☑ 嶺北地域以外の医療機関との連携強化
- ☑ 若者を含む地元住民への看護、介護職の理解と地元で働きたい人へのアピール
- ☑ 人材の育成と質の高いサービスの提供
- ☑ 住民主体の自主的な活動への広がり
- ☑ 専門職の役割や自助、互助等の地域での支援



### 今後の取り組みは・・・

上記の課題を解決し、病気や障害があっても、住み慣れた地域でその人らしく安心して暮らせるようにするために、できることから多職種が連携し取り組みを進めます・・・

#### 取り組みの要点

- 各関係機関が今までの取り組みを継続
- 在宅医療・介護連携推進事業での取り組みの推進

#### 手引き



在宅医療・  
介護連携推進  
事業を進めて  
いきます。

退院前カンファ  
レンスへ多職種が積極  
的に参加し、情報を  
共有して、よりスム  
ーズな在宅復帰を目  
指します。

今後も多職種が連  
携できるよう、勉強  
会や研修会を開催・  
出席していきます。

引き続き、嶺北地域での  
就職相談会を実施していき  
ます。また、地域の若者た  
ちが地域で働きたいと思え  
るような魅力ある職場づく  
りの取り組みも進めます。

引き続きあった  
かふれあいセンタ  
ーでの啓発活動、  
認知症カフェ、認  
知症サポーター養  
成講座を実施して  
いきます。

「多職種連携の手引  
き」を活用し、医療と介  
護両方を必要とする高齢  
者等の入退院をサポート  
し、安心して自宅、居宅  
で生活できるよう連携し  
支援していきます。



このリーフレットに関するご意見やお問い合わせ先

高知県中央東福祉保健所 地域支援室 〒782-0016 高知県香美市土佐山田町山田1128-1

TEL:0887-53-3171(代表) 0887-53-0298(直通) FAX:0887-52-4561 E-mail:130112@ken.pref.kochi.lg.jp